

あーばんとーく

平成16年 4月号 (通巻 第80号)
 発行: こうべまちづくりセンター
 〒650-0022
 神戸市中央区元町通4丁目2番14号
 こうべまちづくり会館内
 電話 078-361-4523 ・ Fax 078-361-4546
 URL:<http://www.kobe-toshi-seibi.or.jp>

まちセン この1年

こうべまちづくりセンターは、平成5年の開設から10年が経ちました。この間、阪神・淡路大震災を経験し住民主体のまちづくりへのサポートも充実させてきました。

平成15年度は、2年目を迎えた「こうべまちづくり学校」や「まちづくりセンター・研究ネットワーク」の立ち上げなど調査研究機能の充実に努める一方、すまい・まちづくり人材センターでの専門家派遣や活動助成などの地域に対する直接的な支援もこれまで同様に行ってきました。

◆人材センターによる専門家派遣等

住民主体のまちづくりや震災からの早期復興をサポートするために15年度も「すまい・まちづくり人材センター」登録専門家の派遣やまちづくり協議会等への助成を行ってきました。

・アドバイザー・コンサルタント派遣

派遣種別	件数
アドバイザー派遣(1次)	16件
アドバイザー派遣(2次)	6件
コンサルタント派遣	68件

・活動助成

助成内容	件数
まちづくり活動助成	49地区
空地の緑化活動助成	5地区

◆ワークショップ隊の派遣

地域での円滑な合意形成の手段として最近特に注目を浴びているワークショップの運営のお手伝いとして地域等からの要望によりワークショップ隊を派遣してきました。

派遣回数	延べ派遣員数
46回	189人

なお、ワークショップ隊の詳細な活動については、別途報告します。

◆まちづくり学校の開催

2年目を迎えたまちづくり学校は、春の基礎講座と秋の専修講座を開催しました。

まちづくり学校は、基礎講座と専修講座2コースを修了されますと卒業となります。一般の学校と違い卒業、修了されても引き続き受講していただくことができます。

・基礎講座

参加者	修了者
111名	85名

・専修講座

	参加者	修了者
Aコース	26名	20名
Bコース	75名	50名
Cコース	40名	31名
Dコース	41名	24名
Eコース	36名	19名
Fコース	35名	17名

・卒業者

14年度からの受講者	23名
15年度からの受講者	14名
合計	37名

◆親子まち探検

「秋だ！親子で探訪六甲山」

普段何気なく見過ごしがちなまちの魅力を知ってもらうとともに、親子や家族の繋がりを考えるきっかけにしてもらうことを目的に開催しており、今年度は少し趣を変えて自然豊かな六甲山で開催しました。

開催日	参加者
10月25日(土)	13組 35名

◆復興まちづくりセミナー

まちづくり系学生会

今年度のセミナーは、まちづくりに関心の高い学生のネットワークであるSPN(まちづくり系学生ネットワーク)と共同で、研究やボランティアで「まちづくり協議会」などの地域組織で活躍する学生が自分たちの成果を発表しました。

また、SPNでは「まちづくり系学生会」の後、交流会「まちづくり交流cafe」、実際のまちを見る「学生まちめぐりツアー in KOBE」も行いました。

開催日時	参加者
3月20日(土) 午後1時～5時	50名

◆神戸の地盤研究会

神戸市内の地盤データベース「神戸 JIBANKUN」の維持管理、神戸の地盤に関する調査研究を目的とした「神戸の地盤研究会」の事務局をH15年度より行っています。

主な行事	開催日
総会・報告会	5月27日
報告会(震災対策技術展)	1月30日
JIBANKUN 研修会	2月10日



◆ま

こうべまちづくりセンターの調査研究機能の一環として10の研究グループの参加をもって発足しました。

15年度の共催シンポジウム

回	テーマ	日時	主催研究会
1	復興都市計画事業と商業再生	9月17日(水) 18:30～21:00	地域経済復興研究会
2	「人を集める」まちづくり	11月13日(木) 13:30～16:30	再開発研究会
3	地区商店街の再生	11月20日(木) 18:30～21:00	地域経済復興研究会
4	阪神・淡路大震災・台湾集大震災復興	12月15日(月) 10:00～17:00	神戸芸術工科大学齊木研究室 こうべまちづくりセンター・研究ネットワーク
5	「まちづくり法制」を問う／関西・まちづくり最前線からの問題提起	1月13日(月) 18:30～20:30	まちづくり法制研究会
6	「地域商業再生フォーラム」	1月20日(火) 18:30～20:30	地域経済復興研究会
7	インド・グジャラート地震／イラン南東部地震都市・住宅復興の現状と課題	2月21日(土) 13:30～15:30	住宅再建・被災地復興システム研究会
8	公開セミナー『阪神・淡路まちづくり支援機構における専門家連携への取組み』	3月25日(木) 18:00～20:00	マンション復興戦略研究会

研究ネットの共催シンポについては、まちづくりセンターのHPの中のまちセン研究ネットのページ

<http://www.kobe-toshi-seibi.or.jp/>

matisen/index.htm

で、ご覧頂けます。

まちづくり初体験の現場から

住民参加から住民主導へ

～「山手ふれあい階段」の整備を通じて～

垂水区東垂水地区内にある山手4丁目と5丁目の丁界にある階段（山手ふれあい階段）が、平成16年2月に完成しました。東垂水地区は文字通り垂水区東部に位置し、地区全体が丘陵地となっています。地区北側、海拔30～60mに広がる住宅地は、その南側に国道2号線とJR・山陽電鉄線を介して眼下には平磯緑地と瀬戸内海を臨みます。高台から眺める明石海峡大橋は絶景ですが、住宅地域内にも20mを超える高低差があることから当然傾斜も多く、その斜面地沿いの狭隘通路や急勾配の階段沿道に多くの未接道木造住宅を抱えるこの地区は、言わば「山麓密集市街地」として、国の補助事業である密集住宅市街地整備促進事業の区域に指定されています。

当該階段も、もともとはけもの道として自然発生的にできた通路であり、道路に該当しない私道です。延長58m、幅員4m、高低差が17mの階段は、表層部分は老朽化による割れや剥離が発生し、段差はまちまちで、階段の上に行くほど急勾配になる

という通行の安全性の問題と共に、沿道とその周辺に建ち並ぶ木造賃貸住宅・長屋は私道ゆえに建替えができないという問題も抱えていました。今回の事業はそうした階段の改修と同時に、整備後は土地の所有者からその敷地を寄付していただいて公道化し、地域の建替えを促進していくという内容です。



BIFORE

平成14年6月、整備に関する説明会を実施し、周辺の方の同意を得て事業を開始しました。計画は当初からWS（ワークショップ）による住民参加型でこない、全4回のWSでは、第1回と2回で現状の良いところ・悪いところを踏まえた新しい階段への希望を出し合い、第3回はそれを基に図面化、第4回では新しい階段計画案のイメージを現地で確認し、ようやく基本図面が出来上がりました。また、図面完成後もWSで出た意見をできる限り計画に活かすべく、階段詳細のデザインをとともに考える「デザイン検討会」（全3回）や、場に潤いを与え、且つ駐輪抑止効果も期待できるプランターを踊り場に設置できるよう、その維持・管理体制を検討する「植栽管理のための世話人会」（全3回）も実施し、ハード面・ソフト面を含めた新しい階段計画としてまとめました。当初は、毎月1回のペースで召集される会議に、参加しつつも煩わしさ

を訴えられる方もおられましたが、それでも住民参加にこだわって話し合いを進めた結果、着工祝いに地元と共同で開催した記念イベントの準備時には、精力的に参加し続けてくれたメンバーを中心に、少しずつ変化が見られるようになっていました。階段の愛称を決めるための愛称募集や、地域の子もたちにも出席して欲しいと企画したビンゴゲームの景品集め、当日参加者に配るお菓子の用意など、自ら声をかけ合い、協力して準備をすすめるその場には、「参加」の意識から「主導」で動きだしたみなさんの姿がありました。

そうすると不思議なもので、またたく間に「住民主導」の意識が地域に浸透していきました。密集した住宅地でおこなう今回の工事は、周辺に与える騒音・振動の影響も決して小さくありませんでしたが、特段トラブルもなく工事は順調に進んでいきました。「ご迷惑をおかけします」とお詫びすると「いえ、自分達の階段が良くなるのだから」という返事をいただくことも多く、地域全体が「わがまちのために自分たちがつづけている階段」という共通の意識をもっていることがうかがえました。

そうしてようやく完成した階段の完成記念イベントでは、その主催者は階段上下の両自治会になっていました。参加者は着工時よりも多い120名以上を数え、大盛況のもと無事幕を閉じました。イベントの最後には、「完成してこれで終わりでは寂しい」「暖かくなったらまたみんなで何かやろう」という声も、多く聞かれました。

（あしがき）

わたしは、行政はまちをデザインするデザイナーであると考えます。デザイナーに求められるのはひととまちをコーディネートする力であり、住民参加型のデザイン手法（WS等）は「ものをつくる」ための過程ではなく、「そだてる」ための過程だということも、今回改めて認識しました。使い手の意見を汲み取り、周囲の様々な条件（自然・歴史・地域性等）ともうまく調整して「そだてる」ための手がかりを準備する、それが参加者をまちづくりの主導者に変え、地域のコミュニティを育



AFTER

み、豊かな風景を映しだし、まち全体がいつまでも継続して発展していく仕組みとなっていく

・・・そんな気がしたまちづくり初体験の現場でした。

（垂水区まちづくり推進課 奥村）

小さな一歩からはじまるまちとの関わり

By 小林健治（プランまちさと・WS 隊）



大学で建築を学んだ私にとって、「まち」とか「まちづくり」という言葉は比較的なじみのある言葉であったが、実際に自分が生活しているまちで、まちづくりに関わっているかといえば、決してそうではなかった。いきなり、専門家としてまちづくりに関わることは無理だとしても、せめて自分の住んでいるまちにはなんらかのかたちでかかわりを持ちたい。そうした動機から今回 WS 隊に応募させていただきました。

私が採用された 4 ヶ月間に、計 7 回の WS に参加する機会があった。これは同期の中では少ない

方で、回数だけでみれば私は決して積極的に WS に参加してきたとはいえないものの、その数少ない WS に参加して心残りなことは、自分が「どこまで」参加できたのかということである。実際の WS では、スタッフ側として働くことが多いわけだが、それぞれ違った地域で違った内容の WS が開催される。その中で学んだことは、その地域の人と同じ視点で、同じように地域のことを考えられれば、自然と進行もうまくいく WS になるということであった。

それでは、どうしたらほとんどはじめて訪れるような地域になじめるのであろうか。きっかけは些細なことでもいいように思う。自分のことを聞いてもらってもいいし、相手の事を聞いてみるでもいいし、その日の天気のこととか、新聞記事とか。小さくてもとにかく一歩踏み出せば、相手の方から何らかのレスがあることが多い。それはもう関わりであり、全てはその小さな関わりからはじまると感じた 4 ヶ月間であったように思う。さらに、今後はただ関わることからもう一歩前進して、どう関わられるかにこだわっていきたいと思います。

最後になりますが、地域の方々には、大した仕事もしていないのに、多大な感謝を受たことを、今更ながら申し訳なく感じるとともに、今回の経験を、今後の自分に役立てていくことを決心する次第であります。本当に、ありがとうございました。

まちづくり会館からのお知らせ

こうべまちづくり会館 1階オープンギャラリーの展示

4月 1日(木)~15日(木)	元町の芸術家たち展Ⅱ	都市計画総局地域支援室
4月16日(金)~27日(火)	こうべまちづくり学校 募集案内	都市計画総局地域支援室
4月29日(木)~5月7日(金)	復興の総括・検証	企画調整局総合計画課

こうべまちづくり会館 地階ギャラリーの予定

期 間	内 容・テ ー マ	主 催 者
4月 8日(木)~13日(火)	元町の芸術家たち展Ⅱ (油彩 他)	こうべ元町130年実行委員会
4月15日(木)~20日(火)	いくた15人展 (油彩)	いくた15人会
4月22日(木)~27日(火)	聖雲会第23回水墨・南画展	聖雲会
4月29日(木)~5月4日(火)	第11回遥洋会油絵展	遥洋会
5月 6日(木)~11日(火)	第4回燦月会絵画展 (油彩)	燦月会